

授業科目 治療学演習（物理療法学・運動負荷学）

【担当教員名】 石黒圭応・椿淳裕	対象学年	3	対象学科	理学
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	60（内15：物理療法学・運動負荷学）

【概要＞又は＜一般目標：G I O＞】

①各種機器の取り扱いを理解し、その重要性と適応を習得する。その際に、起こりうるリスクを選択でき、それに対して対処できる知識・技能を修得することを目的とする。

【＜学習目標＞又は＜行動目標：S B O＞】

1. 物理療法機器のリスクを説明することができ、対処できる。
2. 機器の管理とプログラムの修正を行うことができる。
3. 運動負荷に対するリスクを説明でき、対処できる。
4. 運動負荷の実施とリスク管理、治療方針の修正を行うことができる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO 番号	
1	ガス分析運動負荷実験（自転車エルゴ）	1	石黒圭応・椿淳裕（実習）
2	ガス分析運動負荷実験（トレッドミル）	2	石黒圭応・椿淳裕（実習）
3	1 2 誘導心電図および心電図モニターの実際	2・3	石黒圭応・椿淳裕（実習）
4	物理療法機器の実習・（その1 温熱療法）	2	石黒圭応（実習）
5	物理療法機器の実習・（その2 水治療法・牽引療法）	2・3	石黒圭応（実習）
6	物理療法機器の実習・（その3 電気療法）	1-4	石黒圭応（実習）
7	まとめ・実習に関する試験	1-4	石黒圭応・椿淳裕（試験）

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書	心肺運動負荷テストと運動療法：谷口興一，伊藤春樹：南江堂：2004			
参考書	物理療法学：奈良 勲：医学書院			
その他資料				

【評価方法】 期末試験，出席日数，授業貢献度，などを通して総合的に判断する。	【履修上の留意点】 授業に対して受身にならず積極的に参加し、質問してほしい。
---	---